

1. 日本デジタル教科書学会 2014 年度年次大会のご案内

いよいよ開催が迫ってまいりました。今年は研究・実践発表が例年以上に集まりました(<http://society2014.js-dt.jp/schedule/>)。皆様のお越しをお待ちしております！！

日程：2014年8月16日(土)～17日(日)

会場：(1日目) 新潟日報メディアシップ

(2日目) 新潟大学教育学部附属新潟小学校

主催：日本デジタル教科書学会

後援：新潟県教育委員会, 新潟市教育委員会

BSN 新潟放送, 新潟日报社

詳細・お申込は <http://society2014.js-dt.jp/> より



日本デジタル教科書学会

2014年度年次大会 新潟

深化するタブレット端末活用
今、育成したい能力

8.16(土) 17(日)

大会参加費
会員：無料 ※2014年度正会員・学生会員・賛助会員
非会員：1,000円

最先端がわかる研究・実践発表と、
現場で役立つセミナー・ワークショップが目白押し!!

ワークショップのご紹介

みんなで書こう！
学術論文の執筆から投稿、審査、掲載まで
島田 英昭 先生 (信州大学)

iPadで作ろうマイノート
山田 秀哉 先生 (札幌市立稲穂小学校)

iPadを活用した外国語学習を体験する
岩居 弘樹 先生 (大阪大学)

プログラミング教育で何を学ばせようか？
SmartBall Spheroをつかったプログラミングから考える
広瀬 一弥 先生 (亀岡市立南つづけ小学校)

メディアと教育をご専門の堀田龍也先生による「これから求められる教育とデジタル教科書学会への期待」、
プレゼンの達人 杉本真樹先生による「インセンティブプレゼンテーションで教育を動かす」などセミナーも充実



主催：日本デジタル教科書学会
後援：新潟県教育委員会 新潟市教育委員会 BSN新潟放送
Web：<http://society2014.js-dt.jp/>

大会プログラム

1日目 新潟日報メディアシップ	2日目 新潟大学教育学部 附属新潟小学校
9:00- 受付開始 (1Fみなと広場)	9:30- 受付開始
9:00-10:00 企業展示 (1Fみなと広場)	10:00-11:40 研究・実践発表2、ポスターセッション
10:00-11:30 基調講演 (2Fホール) 講師:堀田龍也 (東北大学大学院教授) これから求められる教育とデジタル教科書学会への期待	11:40-13:00 昼食・休憩
11:30-12:00 総会 (2Fホール)	11:50-12:50 ランチョンセミナー インセンティブプレゼンテーションで教育を動かす 講師:杉本 真樹 (神戸大学大学院)
12:00-13:00 昼食・企業展示 (1Fみなと広場)・休憩	13:00-14:00 企業プレゼンテーション
13:00-15:30 シンポジウム (2Fホール) コーディネーター： 上松恵理子 (武蔵野学院大学准教授 学会副会長) 登壇者： 谷崎 康彦 (内閣府情報セキュリティセンター副センター長) 白水 勉 (国立教育政策研究所総括研究官) 大島 純 (静岡大学大学院教授) 菅 圭福 (KEFIS:韓国教育事情情報院)	14:00-15:30 ワークショップ
15:30-16:00 企業展示 (1Fみなと広場)・休憩	
16:00-17:40 研究・実践発表1 (2Fホール・6Fナレッジルーム)	
18:00-20:00 懇親会 (20Fその他の広場)	



シンポジウム
初等・中等教育におけるタブレット端末活用の可能性



基調講演
講師:堀田龍也 (東北大学大学院教授)
これから求められる教育と
デジタル教科書学会への期待



1日目会場 新潟日報メディアシップ

- ・新潟駅から タクシーで約5分、徒歩で約15分 (約1.2km)
- ・新潟空港から バス(新潟駅まで)で約25分、タクシーで約15分

2日目会場 新潟大学教育学部附属新潟小学校

- ・新潟駅から タクシーで約10分、バスで約15分、徒歩で約40分 (約3.5km)

参加・発表のお申し込みは右記へ

その他、お問い合わせは、
新潟大会実行委員長 片山敬昭 toshirokatayama@gmail.com 宛へ

デジタル教科書学会 検索



2. 研究会のご報告

本学会主催・共催・後援の研究会について、それぞれご報告させていただきます。

なお、本学会では共催・後援の申請を受付けております (<http://js-dt.jp/?p=2835>)。ご興味をお持ちの方は、ぜひ、一度ご覧下さい。

■「デジタル教科書×デジタルペン活用研究会 in 東京 ～デジタル教科書×デジタルペンがもたらす未来の教育～」

2013年11月1日(月)、DNP五反田ビル9階会議室にて「デジタル教科書×デジタルペン活用研究会 in 東京 ～デジタル教科書×デジタルペンがもたらす未来の教育～」が開催された。

デジタルペンに特化した研究会は日本初ということもあり、注目度の高い研究会となった。金曜日夕方の開催にも関わらず65名の参加者で盛況であった。

講演および実践報告では、デジタルペンを活用した学習評価や、一斉授業・協働学習・タブレット端末併用スタイルなど、様々な活用の形が紹介された。今回の研究会では、デジタル教科書端末を導入するかどうかというレベルの話ではなく、一歩先のデジタル教科書端末導入後の教育の姿、課題について議論をすることができた。これは、大きな成果である。また、指導者視点の話ではなく、学習者視点の話で全体が語られていたことも重要な点である。ペンによって学習データを解析できる事の大きな可能性、教育のビックデータ活用、学力の分析方法というところまで突っ込んだ議論は、参加者に大きなインパクトを与え、次の研究への大きなヒントになったのではないだろうか。

会場のスクリーンには、発表資料と並列して授業支援ソフトの画面を表示し、参加者にデジタルペンを利用して専用のワークシートに感想や質問を記入してもらった内容を会場全体でリアルタイムに共有した。講演を聴きながら、ワークショップも兼ねるといった新しい体験を提供することで、アクティブなスタイルの研究会となり、参加者からも大変好評だった。

今回の研究会の記録はデジタルアーカイブとして、ビデオ・スライド・逐語録等を含む詳細な報告書としてまとめ、本学会ホームページで配信している (<http://js-dt.jp/?P=2958/>)。ぜひ、ご活用いただきたい。
(世田谷区立砧南小学校/教育テスト研究センター 菊地秀文)



■「テクノロジーが変える学校×子ども×保護者×社会の関係」 「学校での日常的利活用が生み出す新しい形の信頼」

2013年11月23日(土)、法政大学ポアソナードタワーにて、豊福晋平氏(国際大学グローコム)の「テクノロジーが変える学校×子ども×保護者×社会の関係」、宮崎誠氏(方世代学情報メディア教育センター)の「学校での日常的利活用が生み出す新しい形の信頼」の2つの報告を基に、ディスカッションを行った。

日本の教育情報化は1980年代から本格的に始まった。しかし、過去の先行導入事例やモデル事業はいずれも本格的普及には繋がっておらず、学校現場ではいまだに厄介者として疎外されている。つまり、教師は教具として効果が期待できる授業でのみICTを使うべきだとされ、それ以外は鍵をかけて使わせない。その結果、情報機器に囲まれた子どもたちの日常生活と、旧態依然とした学校との情報環境ギャップはきわめて顕著になっている。

豊福氏が学校に関わる理由は、教師がICTを教具として特定授業で使ってみせるためではない。むしろ、情報化の効果は児童・生徒・保護者に広く波及させうるもので、持続可能で、かつ将来的に教育パラダイムシフトに貢献すべきものだ。



これまで GLOCOM で関わったプロジェクトは、「Apple メディアキッズ」「全日本小学校ホームページ大賞」(J-KIDS 大賞)、「ともしびプロジェクト」がある。いずれも従来の教育情報化政策が取りこぼした学校生活や学校の社会的価値向上に関わるテーマを扱ってきた。

近年業界はタブレット PC 導入議論で沸き立っているが、ICT で(教具として)学習制御する発想では、教師負担もコンテンツコストも高すぎておそらく失敗するだろう。制御する発想を一度捨てて、子どもの創造的知的作業環境として読み替えることが必要だ。タブレットは大人から与えられる教材よりは、共に成長する知的伴侶であるべきだろう。

[AMI1EC アジア太平洋メディアリテラシー教育センターとの共催]

(武蔵野学院大学 上松恵理子)

■「タブレット端末で授業はどう変わるのかー小学校における授業実践例から考えるー」

2013 年 11 月 30 日(土)、富山大学人間発達科学部附属人間発達科学研究実践総合センター主催、本学会後援による講演会「タブレット端末で授業はどう変わるのかー小学校における授業実践例から考えるー」を開催した。講師は、本学会の片山敏郎会長であった。小中学校、教育センターなどの先生方、デジタル教科書・教材の開発等にかかわる企業の方々、教員を目指す学生など 50 名以上の参加があった。

講演の内容は主に次の 5 つであった。

- ・学びを支援する 5 つの環境整備
- ・学習者用デジタル教科書クイズ
- ・グループワークショップ
- ・子どもたちにとってのタブレット端末とは
- ・授業におけるタブレット端末の活用事例
- ・授業で使えるアプリの紹介



グループワークショップは、「タブレット端末を活用した授業のメリットと課題・不安」をテーマに小グループで話し合う活動であった。話し合いの中で出された意見は、タブレット端末のアプリを使ってまとめた。テーマについて考えを深めると同時に、アプリを活用する体験もできて有意義であった。

授業におけるタブレット端末の活用事例では、国語などの教科での活用、そして、総合的な学習の時間における活用について詳しくお話があった。特に総合的な学習の時間における活用においては、タブレット端末を表現や思考の手段として十分に活用していることがよく分かった。

講演だけでなく、グループワーク等も通して、参加者全員でタブレット端末の活用について考える大変充実した会となった。

(富山大学 長谷川春生)

■「3本の矢の提案 in 佐賀」

2014 年 1 月 25 日(土)、佐賀県佐賀市立若楠小学校にて、「3本の矢の提案 in 佐賀」と題し、研究会を開催した。テーマは、「実践者が考える 21 世紀型の学力」。50 名の参加者のみなさんとともに、これからの学力について考えた。長崎大学の寺嶋浩介先生をゲストに迎えての特別講演、当会理事の山田秀哉(札幌市立稲穂小)、広瀬一弥(亀岡市立南つつじヶ丘小)、内田明(佐賀市立若楠小)の 3 人が、学習者用端末を活用した模擬授業を行い、これからの学校での学びについて提案した。最後に、上記 3 人に石狩市立紅南小の加藤悦雄先生を加え、それぞれの実践者が考える 21 世紀に必要な学力について、パネルディスカッションを通して意見交流をした。予測できない未知の課題に出会った時に、子どもたちが協力して解決していく力をどう育てるか、我々教師の役割や学校での学びの形について議論を深め合った。



(佐賀市立若楠小学校 内田明)



■「京都電子書籍勉強会」

2014年7月12日(土)、京都市「三条猪熊なかい」にて、「京都電子書籍勉強会」を開催した。

本勉強会は、デジタル教科書をより広い視点から捉えるべく、電子書籍についてさまざまな側面から参加者も交えて学ぶ目的で計画された。開催に先立ってはアンケートが行われ、その結果を元に、第1回目の勉強会は各国の電子書籍市場の動向に関する報告を軸として行われた。

まず、公正取引委員会 CPRC の「電子書籍市場の動向について調査報告書」の著者の一人である上田昌史氏(京都産業大学・本学会理事)によって電子書籍市場の動向について報告があった。最初に、電子配信市場などに見られる two-sided model に対する理論などを基礎に、音楽配信業界が電子書籍業界と構造類似性を備えることから、日本における音楽配信業界の動向、欧米との比較などが報告された。そのうえで、従来型携帯電話端末からスマートフォンやタブレット端末へ閲覧媒体が変遷する中での電子書籍業界の動向、現状、紙の出版業との関係、欧米との比較やその事例からの日本への示唆などについて、幅広い側面から報告がなされた。

休憩後、参加者からの質問を基に討論が行われた。今回、参加者の多くが関西在住の出版・編集関係者であり、教科書・教材作成にも関わる参加者の割合が高かったことから、電子書籍の作り手の視点からの話題が中心となり、デジタル教科書だけでなく電子書籍に含まれる幅広いジャンルのいくつかについて討論がなされた。全体的に、前半部分のマクロな形の報告を、参加者それぞれの現状に基づくより具体的な内容へ落とし込んでいくような内容であった。

落ち着いた佇まいの町屋といった環境のおかげで、参加者がリラックスできたため、多くの参加者が発言し、それを契機に生産的な討論を行うことができた。

なお、研究会後、会場近くのカフェで開催され、参加者の過半数が参加した懇親会では、後半の討論の熱がそのままに盛り上がり、実に有意義で楽しい時間となり、第2回の開催を希望される参加者も多く、次回勉強会での再会を願い、解散した。(同志社女子中学高等学校 久富望)

